

名誉町民 鈴木 敏文氏

(セブン&アイ・ホールディングス 名誉顧問)

逝去



(写真) 坂城テクノセンター設立 20 周年記念行事 (平成 26 年)

5月18日、町の名誉町民である鈴木敏文さんがご逝去されました。享年93歳でした。

鈴木さんは、昭和7年に坂城の北日名に生まれ、坂城小学校・小県蚕業学校(現上田東高等学校)を経て中央大学経済学部を卒業されました。その後、出版業界大手の東京出版販売株式会社(現株式会社トーハン)勤務を経て、株式会社イトーヨーカ堂に入社し、流通業界へと転身されました。

株式会社イトーヨーカ堂入社後も、時代の兆しを的確に捉え、持ち前の徹底した姿勢で数々の変革をもたらし、自社を大きく成長させました。とりわけ、当時の流通業界では「成り立たない」と批判されたコンビニエンスストア事業を企画・立案し、反対の声を押し切ってスタートさせ、昭和49年の1号店開店以来、常に革新的な発想で挑戦を続け、同事業を大成功へと導かれた手腕は特筆すべきものであります。

その活躍は自社の枠を超え、平成9年には社団法人経済団体連合会副会長、平成17年には社団法人日本経済団体連合会顧問に就任されるなど、日本産業界のリーダーとして重責を担われました。また、通商産業省産業構造審議会、経済戦略会議等、数々の重要審議会の委員として国政にも参画し、日本の産業発展と繁栄に多大な貢献をされました。

教育分野においても多大な熱意を注がれ、中央大学の理事長を務められたほか、数々の著書を通じて次世代の育成にも尽力されました。当町においても度々ご講演をいただき、平成21年には町内の小中学生に対し、いつの時代も変わらない人間としての普遍的なルールを説かれました。「あいさつをきちんとすること、ありがとうと言うこと、約束・時間を守ることを、本を読み、自分で考える力をつけること、規則正しい生活相手の気持ちになること、そして何事にも一生懸命に取り組むこと」。鈴木さんが遺されたこれらの教えは、今も町の子どもたちの心に深く刻まれています。

常に郷里を愛し、子どもたちの育成支援をはじめ、坂城駅周辺の活性化としての鉄の展示館建設や、農業特産品の販売促進など、町の発展にも多大なるご貢献をいただくとともに、東京坂城会名誉会長として会の発展に貢献され、郷里を離れてなおふるさと坂城を愛し、応援くださる皆様と町との絆を深めていただきました。

世界に響く数々の偉業を成し遂げられたそのお姿は、私たち坂城町民にとって永遠の誇りであります。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。